



Source: CQG, Inc. © 2006 All rights reserved worldwide.

- 18日** ドル円は早朝に103.93円まで上昇したものの、その後は全般ドル安が進んだ影響から103.64円まで下押しした。
- 19日** イエレン米次期財務長官が今晚予定されている公聴会で大規模な経済対策に前向きな姿勢を示すと米メディアによる報道が伝わると、日経平均株価や時間外のダウ先物が上昇。為替市場ではリスクオンの円安が優勢となり、ドル円はクロス円とともに一時104.09円まで値を上げた。ただ、その後は米長期金利の上昇幅縮小などが重しとなり103.80円台まで伸び悩んだ。
- 20日** バイデン氏の米大統領就任式を前に様子見ムードが広がる中、ドル円はしばらく103.80円を挟んだもみ合いの展開が続いた。ただ、米株式市場で主要3指数が史上最高値を更新するなど、株価が堅調に推移すると対資源国通貨中心にリスク・オンのドル売りが優勢に。円に対してもドル安が進み、一時103.45円まで値を下げた。
- 21日** 欧州株相場が高く始まったことで、対オセアニア通貨を中心にリスク・オンのドル売りが強まるとドル円は103.33円まで下落した。ただ、1月米フィラデルフィア連銀製造業景気指数など一連の米経済指標が強い内容だったことで103.60円台まで反発する場面があった。
- 22日** 欧州株相場や時間外のダウ先物、コモディティ価格などの下落を背景に、リスク・オフのドル買いが強まった。ドル円は一時103.89円まで値を上げ、その後の値持ちもよかった。
- 総括** 先週のドル円は方向感のない動きとなった。イエレン米次期財務長官の公聴会への期待感から週前半には一時104.09円まで買われる場面があった。ただ、その後はリスクオンのドル安が活発化するとつれる形で103.33円まで下押し。一方で、週末にはリスクオフのドル高に支えられて103円台後半まで切り返すなど、リスクセンチメントの変化に振られる展開となった。

先週の注目された経済指標結果

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	予想値	結果
20日	19:00	水	EUR	HICP改定値	前年比	12月	-0.3%	-0.3%	-0.3%
20日	24:00	水	CAD	BOC政策金利	*	*	0.25%	0.25%	0.25%
21日	未定	木	JPY	BOJ政策金利	*	*	-0.10%	-0.10%	-0.10%
21日	21:45	木	EUR	ECB政策金利	*	*	0.00%	0.00%	0.00%
21日	22:30	木	EUR	ラガルドECB総裁会見	*	*	*	*	*
21日	未定	木	ZAR	SARB政策金利	*	*	3.50%	3.50%	3.50%
22日	24:00	金	USD	中古住宅販売件数	前月比	12月	-2.5%	-2.0%	0.7%

一言コメント・・・BOCは政策金利を0.25%のまま据え置くことを決めましたが、市場では「一部アナリストは小幅な利下げを予想していた」との声も聞かれ、金利据え置きを受けてカナダドル買いが入る場面もありました。マックレムBOC総裁からは「基本的見通しでは時間の経過とともに大規模緩和を必要としなくなる公算」とのややタカ派的な発言もありました。

先週の注目された要人発言

19日20:26 イエレン次期米財務長官「追加経済支援策が無ければ、より長期の苦難に満ちたりセッション(景気後退)が続く可能性」「リセッションから脱却するために、大規模な追加経済支援策が必要」「ドルおよびその他の通貨の価値は市場によって決定されるべき」「米国は経済的利益のためにドル安を求めない」
 20日05:54 メルケル独首相「ロックダウン(都市封鎖)を2月14日まで延長する」
 21日00:01 BOC声明「短期的な成長の弱さと回復を考慮して、大規模金融政策の支援が引き続き必要と判断」「2%インフレ目標の持続的達成のため政策金利を下限で維持」「回復が順調に進むまで量的緩和プログラムを継続」
 21日15:40 黒田日銀総裁「景気は厳しい状態にあるが、基調としては持ち直している」「海外経済、一部で感染症再拡大の影響あるが持ち直している」
 21日20:54 ジョンソン英首相「規制解除の時期について言及するのは時期尚早」
 21日21:50 ECB声明「金利は現行水準またはそれより低い水準にとどまると予想」「2022年3月末までもしくは、コロナウイルスの危機段階が終了したと判断するまではPEPPを継続」
 21日22:39 ラガルドECB総裁「ECBは必要なら全ての政策措置を調整する用意」「インフレは依然として低い」「短期的な見通しは下振れリスク」「為替レートのインフレに与える影響を注視」「不確実性は依然として高い」「見通しの下振れリスクは以前よりも顕著ではなくなった」「ECBは為替レートを非常に注意深く見守っている」
 23日02:13 エルドアン・トルコ大統領「高金利のもとでトルコ経済が発展するとは思えない」「高金利は絶対に反対」

一言コメント・・・ラガルドECB総裁が「見通しの下振れリスクは以前よりも顕著ではなくなった」と述べると欧州長期金利が上昇し、当初ユーロは買われましたが、為替相場を注視していく姿勢が改めて示されるとユーロ買いの勢いは後退。結局、大きな方向感はなくもみ合いの展開となりました。

今週の経済指標

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値
27日	28:00	水	USD	FOMC政策金利	*	*	0.00-0.25%		0.00-0.25%
27日	28:30	水	USD	パウエルFRB議長会見	*	*	*	*	*
28日	22:30	木	USD	GDP速報値	前期比年率	10-12月期	33.4%		4.4%
28日	24:00	木	USD	新築住宅販売件数	前月比	12月	-11.0%		2.3%
29日	16:00	金	DEM	GDP速報値	前期比	10-12月	8.5%		0.0%
29日	22:30	金	CAD	GDP	前月比	11月	0.4%		
29日	22:30	金	USD	PCEコアデフレーター	前月比	12月	0.0%		0.1%

今週の注目は・・・FOMC

GIweekly今週のマーケットポイント [会員専用版]は、

お取引画面内の「マイページ」や「お客様限定」よりご覧いただけます。

- 今週のドル円相場見通し
- 今週のGI24コメンテーターの一言
 - 荻野金男
 - 和田仁志
- 今週の注目経済指標
- 今週のテクニカルポイント
- 先週のコメント
 - 今井雅人
 - よろずのつぶやき

情報提供元：株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

株式会社DZHフィナンシャルリサーチより提供している情報（以下「情報」といいます。）は、情報提供を目的とするものであり、特定通貨の売買や、投資判断ならびに外国為替証拠金取引その他金融商品の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はあくまでお客様ご自身の判断と責任において行ってください。また、予告なしに内容を変更することがありますのでご注意ください。商用目的で情報の内容を第三者へ提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容によって生じた如何なる損害についても、（株）DZHフィナンシャルリサーチは一切の責任を負いません。